

米国環境保護庁
ワシントン,D.C.20460

大気放射局

2017年11月14日

ENERGY STAR コンピュータ・パートナー又は他の関係者各位

2017年9月28日、米国環境保護庁(EPA)は ENERGY STAR コンピュータ基準書改訂 7.0 第2草案を発行した。EPAは2017年10月12日の webinar で要件の更新を議題にしに関係者各位からフィードバックを受け取った。この中で、ノートブック分類2の基本許容量とノートブックメモリ許容値の調整は、異なるハードウェアプラットフォーム間で適合モデルを適切に選択できるという魅力的なフィードバックが提供された。これらのメモリ許容値の調整は、小さなメモリ構成にペナルティを課さないことを保証し、大きなメモリ構成に不当に許容値を提供しないためにも必要です。EPAは、草案2に対するこれらの潜在的な変更について、12月初めに公開予定の最終草案にそれらを含める前にフィードバックを求める。

ノートブックの分類2の基本許容値の変更について

EPAは関係者各位のフィードバックで、ノートブック分類2の基本許容値が16GB以下のメモリの異なるハードウェアオプションで、適合を制限する提案を受け取った。その結果、EPAはこの基本許容量を12から14kWh/年へ増やす提案をするが、これは、製品群でテストされた代表モデルよりもメモリが著しく少ない、ハイエンド構成の性能を反映する。表8の提案された変更を以下に示す：

表8：ノートブックコンピュータに対する基本許容値 TEC_{BASE}

分類名	ノートブック	
	性能範囲、P	基本許容値
0	$P \leq 2$	6.5
1	$2 < P \leq 8$	8.0
2	$P > 8$	12.0 14.0

ノートブックのメモリ許容値の変更について

EPAは関係者各位のフィードバックで、草案2のノートブックメモリ許容値に関する2つの問題を受け取った。以下に示す：

- 4GBメモリのローエンド構成は、草案2の基準によると相当数が適合できない。関係者各位からのコメントでこの問題が明らかになったが、適合製品データの場合、これらの下位モデルは通常は報告されず、代表モデルは最高のメモリ構成が提供される製品群構造のため、明らかにはならないからだった。
- 合計メモリが16GBを超えるハイエンド構成の適合率は不均衡に高くなり、提案された0.4kWh/年のGB許容値よりも急峻でない許容値が必要である。

EPAはこれらの知見を裏付けるデータをレビューし、メモリ許容値を調整し、4GBまでのメモリはわずかに増やし、4GBを超えるメモリは少なくすることを提案している。この方程式は、ノートブックで

の最新の規制の考え方として、カリフォルニアエネルギー委員会が採用したメモリ許容値と同様にスケールリングされるが、許容値は、リーダーシップである ENERGY STAR の目的に適している。修正されたメモリ許容値を以下に示す。

機能	ノートブック
TEC _{MEMORY} (kWh) ⁶	0.4 2.4+ (0.294×GB)

6 : TEC_{MEMORY} : システムに搭載した GB 毎に適用する。

The combination of the proposed changes to the notebook category 2 base allowance and notebook memory adder is intended to allow sufficient selection of certified models across different hardware platforms.

ノートブック分類2の許容値およびノートブックメモリ許容値をともに変更することは、異なるハードウェアプラットフォーム間での適合モデルの十分な選択を可能にすることを意図している。

関係者各位には、ここに示した提案変更へのフィードバックまたは一般的なことに関するコメントを2017年11月30日までに computers@energystar.gov に連絡をお願いしたい。質問又は懸念に関しては、小職 Fogle.Ryan@epa.gov (202-343-9153) 又は John Clinger John.Clinger@icf.com (215-967-9407) に連絡されたい。

Ryan Fogle

EPA ENERGY STAR—IT 及びデータセンター製品部門 マネージャー